

リンゴ新しい性台木「JM7」を用いた「ふじ」の生育及び果実特性

果樹試験場リンゴ支場で育成されたリンゴわい性台木「JM7」は、「ふじ」を穂品種とした場合「M.26」台木よりわい化効果が高く、熟期が早まり果実品質も優れており、省力的低樹高栽培に適した台木として期待される。

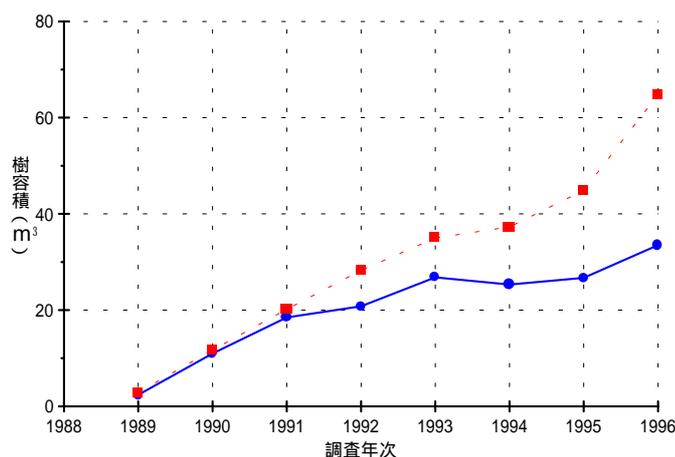


図1 JM7及びM.26台木を使用した「ふじ」の樹容積の推移

「JM7」台木を用いた「ふじ」における樹容積の変化は定植6年頃からほぼ30m³前後から微増の生育経過を示している。

一方、「M.26」台木を用いた「ふじ」の樹容積の変化は定植6年目以降も樹冠の拡大が続き9年目には樹容積が60m³を超え約2倍の大きさとなった。

このことから「JM7」台木のわい化効果は「M.26」台木よりやや強いことが明確となった。

「JM7」台木を用いた「ふじ」の果実品質は「M.26」台木と比較して、果実糖度は過去5ヶ年の平均で、約1度(Brix)高い値が得られている。

また、酸度についてもやや高い傾向が認められ、比較的濃厚な食味を有した。

果実硬度についてはいずれの年も「JM7」台木「ふじ」の硬度が高く、日持ち性が期待される。

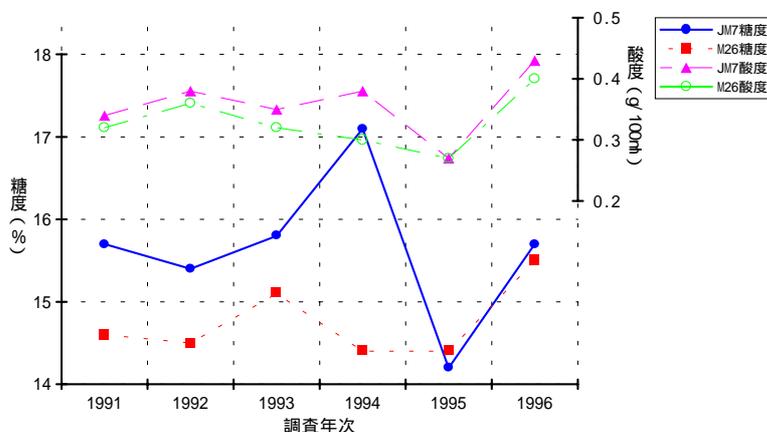


図2 JM7及びM.26台木を使用「ふじ」の糖度、酸度

表1 時期別果実品質 (1996年)

調査日	台木	調査果重 (g)	地色	硬度 (lb)	糖度 (Brix) (%)	酸度 (g/100ml)	ヨード反応
10/29	JM7	275	4.0	16.4	14.7	0.45	1.7
	M.26	300	2.2	15.5	13.5	0.39	2.2
11/5	JM7	312	3.5	16.3	14.1	0.46	2.0
	M.26	308	3.3	14.9	13.8	0.42	2.0
11/11	JM7	278	4.0	16.8	15.0	0.44	1.0
	M.26	332	3.8	14.8	14.1	0.33	1.8
11/18	JM7	334	4.5	15.2	15.7	0.43	0.7
	M.26	328	4.1	15.0	15.5	0.40	1.8

注) 11月18日の収穫果実の調査日は11月25日

「JM7」台木を用いた「ふじ」は「M.26」台木と比較して果実糖度の上昇が早く、デンプンの消失も早い傾向がみられた。

このことから、「JM7」台木を用いた「ふじ」は「M.26」台木を用いたものより熟期が早いと考えられ、収穫期は5日程度前進すると考えられる。